
急性拒絶を繰り返し治療に難渋した 生体腎移植の1例

秋田大学医学部泌尿器科、同第三内科*
岡根克己、佐藤滋、寺井康詞郎、鈴木文博
赤尾利弥、土谷順彦、下田直威、小川修
加藤哲郎、大谷浩*、小松田敦*

Experience of frequent acute rejection in renal transplantation : a case report

Katsumi Okane, Shigeru Satoh, Yasuhiro Terai, Takehiro Suzuki,
Toshiya Akao, Norihiko Tsuchiya, Naotake Shimoda, Osamu Ogawa,
Tetsuro Katoh, Hiroshi Ohtani*, Atushi Komatsuda*
Department of urology and Third Department of Internal Medicine
Akita university School of Medicine, Akita

今回我々は、生体腎移植後に急性拒絶を繰り返し、治療に難渋した1例を経験したので報告する。

1. 症例

患者：19歳、男性。

家族歴、既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：平成3年に検診にて蛋白尿を指摘され、近医受診。腎生検にて巣状糸球体硬化症と診断された。以後外来にてfollowしていたが、徐々に腎機能悪化し、平成8年3月CAPD導入となり、平成10年3月30日HLA 3/6 マッチの母親をドナーとする生体腎移植目的に入院となった。

入院時検査所見：血液検査でRBC 371万/mm³、Hb 11.2g/dl、Ht 38.6%と貧血を認めた。血液生化学検査では、BUN 43mg/dl、Cr 15.2mg/dlであったが、その他異常所見を認めなかった。

入院後経過：平成10年7月19日生体腎移植施行。免疫抑制剤はサイクロスポリン (CyA)、アザチオプリン、ステロイドの3剤併用とした。術後1週目に発熱、クレアチニンの上昇見られ、急性拒絶としステロイドパルス療法を行った。しかし、クレアチニンの下がり悪く、DSG投与を行ったが、クレアチニンの低下見られず、尿量の減少見られたため、術後16日目、18日目に血液透析を行った。その後、OKT 3を投与し、クレアチニンは低下した。その後も2回急性拒絶を発症、CyAでは免疫抑制効果不十分と判断し、7月16日よりCyAをタクロリムス (FK506) 変更した。その後も1回急性拒絶反応発症するも、ステロイドパルス療法にて軽快、以後急性拒絶見られず、10月30日退院となった。

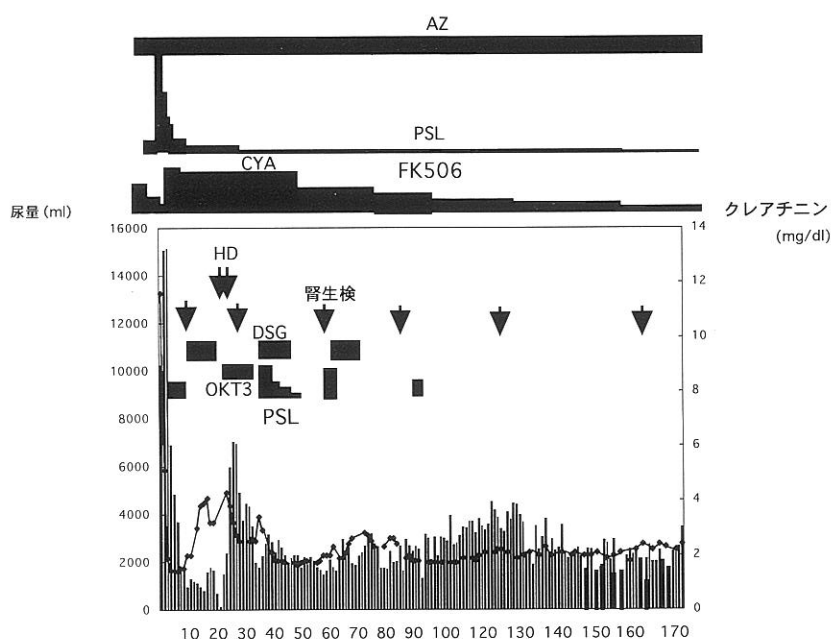
2. 考察

タクロリムスはシクロスポリンの10倍から100倍の免疫抑制効果を有することが知られている強力な免疫抑制剤である。タクロリムスの特徴は①短期移植腎生着率はシクロスポリンと変わらないが、拒絶反応抑制作用は強力であり、シクロスポリンを上回る長期移植腎生着が期待できる。②ステロイドの使用量がシクロスポリンに比して少ない。③腎毒性が軽度である。④糖尿病、狭心症等の副作用が見られる。⑤拒絶反応の予防効果のみならず、治療効果も有する (rescue therapy)。等があげられる。

ベースの免疫抑制剤を変更する場合には2つの理由がある。第1の理由は拒絶反応が抑制できない場合であり、第2の理由は副作用のためである。本症例では第1の理由で変更したため、この点につき検討する。

JordanらによるとCyAでの免疫抑制下、進行中の急性拒絶反応により移植腎機能が失われつつある腎移植患者にタクロリムスへの変更を行い、71%の移植腎の救済に成功したと報告しており、タクロリムスが救済的治療薬となりうると述べている。また、維持免疫効果不十分との理由でタクロリムスに変更された場合も、高橋らによると75%の症例で変更後コントロールが良好になったと報告しており、CyA使用中頻回に拒絶を起こす症例では早期にタクロリムスに変更するべきであると思われる。本症例でもCyAで免疫抑制下、頻回に急性拒絶を繰り返し、タクロリムスに変更後拒絶反応が1回しか起こらなかったことより、タクロリムスによる救済療法の効果が認められたものと考えられる。

臨床経過



3. 結語

生体腎移植後急性拒絶反応を繰り返し、免疫抑制剤をCyAからタクロリムスに変更し良好な経過が得られた症例を経験した。CyAで免疫抑制下急性拒絶を繰り返す症例では、タクロリムスへの変更も治療の一手段であると思われた。

参 考 文 献

- (1) 高橋公太、太田和夫、岩崎洋治、高木弘、園田孝夫 (1994) 腎移植におけるFK506 (tacrolimus) の救済的治療試験成績—FK506腎移植研究会— 移植29：682—697
- (2) Jordan ML, Shapiro R, Jensen CW, Scantlebury V, Fung J, Tzakis A, McCauley J, Jain A, Demetrius J, Randhawa P, et al (1991) FK 506 conversion of renal allografts failing cyclosporine immunosuppression.
Transplant Proc 23 : 3078—3081